

中日新聞に掲載されました

インフル「経験ない」猛威

名東の医療機関「他の感染症も増」

昨年末の1週間に報告された全国の患者数が過去最多を記録したインフルエンザ。新型コロナウイルスやマイコプラズマ肺炎など他の呼吸器感染症も拡大している。18、19の両日には大学入学共通テストが実施されるなど本格的な受験シーズンの始まりを前に、専門家はマスクの着用や換気といった予防策を呼びかけている。●面参照

「11月までの感染爆発は経験がない。インフルエンザだけでなく、他の感染症も増えている」。藤が丘オースキッドファミリークリニック（名古屋市中東区）の伊藤祐一院長（45）は驚きを

隠さない。予約制の発熱外来には連日、5〜10人が検査に訪れる。現在はインフルA型の中でも感染力が強いH1N1が主流という。クリニックには、インフルの他に新型コロナウイルス、マイコプラズマ肺炎のウイルスなど15種類を調べられるPCR検査機器があり、複数に同時感染した患者もいるという。インフルに似たせきや発熱の症状があり、乳幼児に多い「ヒトメタニューモウイルス」の感染も確認された。

伊藤院長は急拡大の理由を「新型コロナウイルスに対する警戒感が薄れ、マスクを着用する人が減ったり、換気が

不十分だったりすることが大きい。検査をする人が増えたことも影響しているのでは」と指摘する。インフルはコロナ禍で大流行がなく、免疫低下につながったとみられる。

昨年12月23〜29日の1定点医療機関当たりの患者数は、愛知県が警報レベルの30人を大きく超える82・35人となり、過去最多を記録。特に年末年始は帰省などで家族が集まり、感染の機会が増えた。名古屋市内の休日診療所には大勢の発熱患者が訪れ、東区の市医

師会急病センターは12月29日〜1月3日に前年比約5割増の約5千人が受診。診察まで4時間待ちとなるなど混雑した。

インフルA型は例年、1月下旬にかけてピークを迎え、徐々にB型に置き換わる。11日からの3連休で再び人の移動が増えることも予想される中、予防策としてはマスクの着用やうがい、手洗い、部屋の換気、

インフルエンザの感染対策

- 手洗い・消毒** 流水や石けんで手洗いし、アルコールで手指を消毒
- こまめな換気** 換気扇を有効活用。窓やドアは対角線上の2カ所を開放すると効果的
- 十分な休養と食事** バランスの良い食事をとり、生活習慣を整え、体の抵抗力を高める
- 繁華街を避ける** 高齢者や基礎疾患のある人などがやむを得ず人混みに行く場合、マスク着用の検討を
- 適度な湿度** 加湿器などを使い、適切な湿度（50〜60%）を保つ
- マスク** 学校や職場で感染者が出始めたら、3密空間などで着用の検討を
- せきエチケット** せきやくしゃみは、他の人に向けず、ティッシュや腕の内側などで覆う（厚生労働省の資料などから）



発熱し、インフルエンザなどの検査を受ける男児＝名古屋市中東区で

バイオファイヤー・スポットファイヤー



一度の検体採取で
15種類のウイルス・
細菌を調べられます。

十分な休養などが有効だ。重症化を防ぐワクチン接種後に体内で抗体ができるまでに2週間ほどかかる。愛知県立大の清水宣明教授（感染制御学）は「高齢者など基礎疾患がある人は重症化しやすく、今からでもワクチンを打った方がいい。今季すでにかった人でも、別の型に感染した場合に重症化を防ぐ効果がある」と話す。（平井良信）